

R8 全中大会開催地について VER. 4

文責：顧問 馬場治男

【2025. 3. 17_岡山県協会からの回答後/常任理事会後報告の修正】

現状（課題の所在）

- ・全日本中学生ホッケー選手権大会は、中学生の全国大会であることから日本中体連主催の全日本中学生大会の開催ブロックに可能な限り合わせて開催している。
※北海道ブロック、四国ブロックでの開催実績は無く他ブロックが穴埋めをしている。
- ・開催経費を開催地に頼らなければならない現状がある。
⇒ R5:448 万円、R6:311 万円開催地で捻出して大会開催をしている。△資料1・2参照
- ・経費・マンパワーの確保困難などの理由で全中大会開催を引き受けられない府県がある。
※R7 年度は九州ブロック
※事務局で開催可能な府県にお願いし、できるところに頼るやり方で回してきた。
- ・R8 年度は山口県で開催できる見込みであったが・・・、R6. 10 月に白紙返上となった。
⇒ 新たな開催地を選定するには期間が短く過ぎることから、開催をお願いするに当たって、かなりの無理を強いることになり、今までに無く厳しい条件での開催地検討になっている！

進捗（これまでの対応）

- ・山口県の返上を受け、中国ブロックで開催地の再検討を行う。
⇒ 各県の事情から・・・、岡山県に(矛先が向き)開催地検討のお願いができないか依頼
⇔ しかし、岡山県は3年前のR5年度(四国ブロック全中)に全中大会開催！
△詳細は「要望書」を参照
- ・R7. 1. 8に馬場顧問と久保事務局長で岡山県協会に伺い、R8年度の開催についてU15部会として依頼する。
*小倉会長、平尾理事長にご対応をいただく。
*開催をお願いするにあたっての課題を共有させていただく。
(開催に伴う経費・開催時期・地元役員等の人的負担など)
- ・U15部会からJHAに「要望書」を提出 △「要望書」参照
- ・1月度JHA理事会で久保理事が「要望書」を基にJHAに(主に経費面での)状況打開を懇願する。
⇒JHA理事会では今後検討していくということでその場は終わっている。
※久保理事には、継続的にこのことについて進捗を確認(催促)していただく。

提案・協議（岡山県開催をお願いするにあたって）

《 経費面での解決策（案） 》

- ・ JHA に大会補助金増額について継続的に要望する。（R7 からの増額を目指し！）【報告】
- ・ 補助金、助成金について研究し獲得の努力をする。【事務局としての努力目標】

△岡山県協会との協議(R7.1.8)の中で、U15 部会から大会参加費の増額(¥10,000/チーム)について提案をしたが・・・、経費面での解決策を安易に選手・保護者に求めるのではなく、まず JHA に主管団体として責任としての対応することを最優先に交渉していくべきであったとした。選手・保護者への負担は現段階では求めるべきでないを確認した。【報告】

《 開催期日について 》

- ・ 開催期日は、8月の第3・金～月に行うのが慣例となっているが、全日本中学生大会の他競技〔柔道(8/18～)・ハンドボール(8/17～)が岡山市に宿泊予定〕との関係および近畿ブロック大会終了後の準備期間を考慮し下記の3案から検討する。なお、日程に関する最終決定は岡山県ホッケー協会に委ねる。

【開催日について岡山県の決定に委ねることについて承認 ⇒ 実情を考慮し一部修正】

開催候補日 案1 2026年8月13日(木)～8月16日(日)

案2 2026年8月14日(金)～8月17日(月)

案3 2026年8月21日(金)～8月24日(月)のいずれかとする。

《 開催県へのメリット 》

- ・ R8年度の参加枠について「開催地枠(第1シード)」の運用について特例措置をとる。
※)開催地枠を使うチームを確定するタイミングをブロック大会前に限定しない。

【承認】

大会開催依頼の経緯と現状を踏まえ、当該大会における開催枠の運用方法について上記のように配慮すべきであることを常任委員会の総意により決定した。

《 U15 部会としての努力（競技運営面について） 》

- ・ 競技役員として関われる人材を育成し R8 大会に貢献する。【U15 部会の努力目標】
例)U15 関係者から T1(TD)、T2(TO)、B 以上の UMP を育成する。
例)現時点での有資格者は極力大会にエントリーする。（馬場は派遣調査に○で回答）

この内容は 2025.2.23 の U15 部会第 2 回常任委員会で協議された内容である。

以上